

江上 茂雄 展

会期・2015年12月5日(土)～2016年2月14日(日)

時間・10:00-20:00 ※火曜日、12月29日～1月3日は休

会場・熊本市現代美術館ギャラリーⅢ 入場無料

主催・熊本市現代美術館(熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団)

熊本市現代美術館では、ギャラリーⅢの108回目の企画として「江上茂雄」展を開催します。

明治45年(1912)、福岡県山門郡瀬高町(現みやま市)に生まれた江上は、15歳で三井三池鉱業所建築課に入社。以後45年間、会社員として勤めながら、クレパス・クレヨン画を描きつづけました。主なモチーフは、大牟田の身近な風景ですが、それ以外にも、植物画や、実験的即興絵画など、その内容は多岐にわたります。江上は、会社が休みとなる日祭日以外の、平日の退社後の時間でさえも、寸暇を惜しんで制作に没頭し、いわゆる「日曜画家」の範疇をゆうに超える、驚くべき質・量の作品を残しています。

その後、昭和47年(1972)に60歳で退職。熊本県荒尾市に転居すると、水彩画に取り組み始めます。元旦と台風の日を除くほぼ毎日、約30年にわたって戸外に出て、荒尾を中心とした近郊の身近な風景を描き続けるその姿は、「路傍の画家」とも呼ばれました。平成26年(2014年)に101歳で没するまで、約20,000点の作品を制作しています。

本年、荒尾市の「三池炭鉱 万田坑」は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を構成する資産として世界遺産に登録されました。明治末年に生まれ、大正、昭和、平成と4つの時代を生き、江上を描いてきた荒尾・大牟田の風景は、その歴史にそのまま重なります。しかし、江上が見つけてきたのは、その栄枯を物語るようなドラマティックな風景ではなく、平凡な地方都市の、極めて日常的な風景です。永遠の日常の中で、日々「美」を見出しながら、生きること。江上の生涯や作品にふれることで、立ち現われてくる、あなたにとっての故郷としての風景や、その「美」について、思いを馳せて頂ければ幸いです。(坂本顕子/熊本市現代美術館主任学芸員)

関連イベント

ギャラリートーク①

「江上茂雄という光」

話し手：竹口浩司(福岡県立美術館学芸員)

□ 2015年12月5日(土)14:00～15:00

□ 展覧会場内 参加無料

2013年に「江上茂雄：風ノ影、絵ノ奥ノ光」展を同館で企画した竹口氏をお招きし、江上さんとの交流のなかで触れたその人柄や、作品について語っていただきます。

ギャラリートーク②

「江上茂雄さんと炭鉱のまち」

話し手：小野由起子(熊本日日新聞文化生活部記者)

□ 2016年1月30日(土)14:00～15:00

□ 展覧会場内 参加無料

荒尾支局時代に江上さん取材した小野氏をゲストに迎え、その印象や、荒尾という土地の歴史や風土についてお話いただきます。



《私の鎮魂花譜》昭和13年から昭和40年代初頭頃/鉛筆・水彩



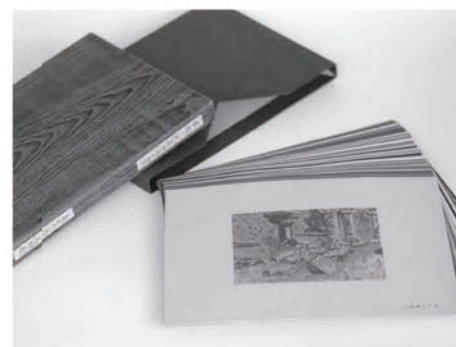
《習作》昭和2年頃/水彩



《倉庫の前》平成7年3月/水彩



《私の手と心の抄》昭和35年から昭和47年頃/紙に水彩・クレパス等



《大牟田五十景》昭和47年/多色刷り木版

江上茂雄 えがみ・しげお

明治45年(1912)0歳	福岡県山門郡瀬高町(現みやま市)に生まれる。小学校でクレヨン画、高等小学校で水彩画を経験する。
昭和2年(1927)15歳	三井三池鉱業所建築課に入社。以後45年間、会社員として勤めながら「日曜画家」としてクレパス・クレヨン画を描く。
昭和13年(1938)26歳	植物細密素描画『私の鎮魂花譜』を制作開始。その後、31歳で結婚し、2男2女をもうける。
昭和34年(1959)47歳	木版『大牟田五十景』、『私の手と心の抄』制作開始。
昭和47年(1972)60歳	退職を機に、初個展を実施。その後、熊本県荒尾市に転居。以降、数年に一度のペースで個展を行う。
昭和54年(1979)67歳	現場写生による水彩風景画を制作開始。
平成21年(2009)97歳	この頃が、現場写生の最後となる。
平成22年(2010)98歳	第10回個展(福岡・アーツスペースステラ)、『江上茂雄作品集』刊行。
平成25年(2013)100歳	「江上茂雄 風ノ影、絵ノ奥ノ光」展(福岡県立美術館)、「江上茂雄展 百一賀、小さな私の毎日」(田川市美術館)、「江上茂雄の世界 ふるさと大牟田の情景」(大牟田市立三池カルタ・歴史資料館)を同時開催。
平成26年(2014)101歳	没。「江上茂雄 ふるさと荒尾」展(荒尾市総合文化センター、万田炭坑館)。